令和７年度「人権教育研究推進事業」研究指定校事業

都道府県・指定都市名（　広島県　）

１．基本情報

研究指定校名	広島県立日彰館高等学校

○これまでの研究指定等の状況

令和６年度「人権教育研究推進事業」研究指定校

○学級数

各学年２学級（計６学級）

○児童生徒数

187 人（令和８年２月 16 日現在）

○URL

https://www.nitsushokan-h.hiroshima-c.ed.jp/

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	自他の価値観を尊重し、協働する力を育成する人権教育の推進に関する研究

○調査研究のテーマを設定した目的

広島県では、「広島県　教育に関する大綱」において、身に付けさせる資質・能力の一つとして「多様な価値観を受容し、多様な個性・能力を生かし、他者と協働しながら新たな価値を創造していく力の育成」を掲げており、人権教育においても、自他の価値を認め他者と協働する力の育成に向けた取組を推進している。多様な価値観の受容については、様々な場面で多様なルーツを持つ人々と出会う中で、自分とは異なる他者の個性や考え方、その背景にある伝統、文化などを柔軟に受け入れていくことが重要であり、県立学校においては、海外の学校と姉妹校提携を行い、海外の生徒や現地の様々な人々との相互交流を行っているところである。

令和６年度には、県立高等学校１校を指定校として人権課題「外国人」を重点課題に設定し、「外国人」を事例として、多様な他者と関わる機会を多く設定した。加えて、主に学校行事において、生徒に目標の設定、計画の策定及び実行、事後の振り返りといったＰＤＣＡサイクルを意識させ、生徒が自分自身や他者の姿を俯瞰的・客観

的に理解し、互いを認め合うような姿勢づくりを目指した指導を行ってきた。
　その結果、生徒アンケートの「世界には多様な文化や価値観があることを理解している」「協働することの重要性を理解している」「他の人の喜びや悲しみに共感しようとしている」といった項目の肯定的な回答が増えており、他者の価値観を尊重し、協働しようとする態度の育成につながったという成果が見られた。
　一方で、「友達や周囲の人から認められていると思う」「自分の考えを積極的に伝えることができる」といった項目が依然として低いままであり、自己肯定感や自己有用感をどのように高めていくのかが課題として残された。
　以上のことから、自己についての肯定的態度を高めることに主眼を置きながらも、生徒に協働の場を与えるだけでなく、人権教育の視点から他者に対する理解や受容しようとする態度の育成を進めていく取組が必要であると考えている。
　よって、育てたい生徒の姿を「多様な他者を知り交流する中で、自他の価値観を尊重し、協働して物事を進めていく生徒」とし、令和６年度からの経年変化を考慮しながら、その育成のための人権教育の在り方を明らかにすることを目的として、本研究テーマを設定した。

〇調査研究の概要

〇　「外国人」を重点課題とし、これを事例として多様な価値観に対する理解の定着を目指す。
〇　特別活動（主に学校行事）を柱に教科横断的な視点で教育活動を推進することで、他者に対する理解や協働しようとする態度の育成を図る。
〇　他者の感性や価値観に触れる機会と自分の感性や価値観を表現する機会を、教育活動全体で多く設定し、生徒の自己肯定感を高める。
〇　これらの実践を通して、自他を認め、尊重し、協働して物事を進め、社会に参画しようとする生徒を育成する。
〇　令和６年度からの経年変化を観察し、取組の成果を評価する。

〇指定理由

　当該校は、令和６年度人権教育研究指定校事業の指定校として、「多様な他者を知り交流する中で、自他の価値観を尊重し、協働して物事を進めていく生徒を育てる学校」を中期経営目標として位置づけ、学校行事を中心に、生徒同士が主体的に関わり、協働することを重視した取組を行ってきた。
　令和６年度は、文化祭や体育祭等の学校行事において、生徒が主体的に計画・運営を行うことで協働性、合意形成力を高めるよう取り組んだ結果、生徒アンケートによる「学校行事の満足度」に関する設問においては、肯定的回答が平均で 82%であり、特に２学年時の研修旅行については 100%と肯定的評価が高い状況である。
　一方で、ＳＮＳにおけるトラブル等の人間関係に起因した生徒指導事案の発生等、自己中心的で自己の感情のコントロールが不十分、かつ他者の気持ちを「慮る」行動ができていない場面も依然として散見される。
　これまでも生徒指導部を中心に組織的な対応を行い、問題行動への早期対応と未然防止に努めてきたが、対処療法的な側面が強く、生徒の心を耕しより深く考察させるような根本療法的な指導援助が十分に行えていない面もみられる。
　以上のことから、当該校においては、令和６年度に引き続き生徒に協働の場を与えるだけでなく、人権教育の視点から他者に対する理解や受容しようとする態度の育成

を進めていく取組が必要であると考えている。
　また、当該校は姉妹校提携をしている台湾の学校への希望者による研修旅行を実施したり、留学生との交流会である「吉舎おもてなしプラン」を開催したりする等、国際交流を重視している。加えて、当該校が設置されている三次市でも、様々な国際交流を通した国際感覚豊かなひとづくりが推進されている。
　したがって、当該校を指定することで、本県が目指す『「外国人」を事例として、自他を認め、尊重し、協働して物事を進め、社会に参画しようとする生徒を育成する人権教育の在り方』を研究することができると考え、当該校を指定した。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。
※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

① 子供	〇
② 女性	
③ 高齢者	〇
④ 障害者	〇
⑤ 同和問題	
⑥ アイヌの人々	
⑦ 外国人	◎
⑧−１ HIV 感染者等	
⑧−２ ハンセン病患者等	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	〇
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	
⑭ その他（　　）	

４．調査研究の内容等

〇調査研究の内容

自他を認め、尊重し、協働して物事を進め、社会に参画しようとする生徒を育成するため、重点課題を「外国人」とし、特別活動を中心とした教科横断的な視点で人権教育の在り方について研究する。特別活動では、「多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする」ことが目標に掲げられ、特別活動で育成を目指す資質・能力の３つの視点として、「人間関係形成」「自己実現」「社会参画」が挙げられている。このことから、目指す生徒像に向けた人権教育の在り方について研究を進めるに当たり、研究する際の切り口として特別活動に焦点を当てて研究を行う必要があると考える。

また、令和６年度に引き続き、学校行事で生徒が協働的な活動を行う前に、人権教育の視点から自他に対する理解や受容しようとする態度の育成に向けた取組を取り入れる。論理学習と実践を組み合わせることで、自他に対する理解や受容しようとする態度の育成がより一層進むと考える。更に、生起した様々な課題について、教員が根拠を持った指導援助を行い、解決につなげることができると考える。

〇実施方法

本事業を推進するに当たって、自他を認め、尊重し、協働して物事を進め、社会に参画しようとする生徒の育成を目指し、指定校と連携して、次の調査研究に取り組んだ。なお、令和６年度からの経年変化を見取るため、本事業を推進する対象は、第２学年とした（令和６年度は、第１学年を対象として本事業を実施した）。

〇　「外国人」等を事例として、多様な価値観に対する理解の定着を目指した授業の実施を行った。

⇒　総合的な学習の時間や特別活動において、「外国人」を学習内容に含んだ授業を実施し、言語・文化・歴史・価値観などの複数の視点から多様な価値観の在り方を理解させた。

⇒　学校行事として、留学生との交流会である「おもてなしプラン」を実施した。取組の前には、留学生をおもてなしする内容や方法を、留学生の実態等を踏まえて考える活動を行い、他の言語や文化について理解させた。

〇　特別活動（主に学校行事）を柱に教科横断的な視点で教育活動を推進することで、自他に対する理解や協働しようとする態度の育成に取り組んだ。

⇒　６月の文化祭は、文化祭に向けての準備において、人間関係が深まりＳＮＳでのトラブルが起こりやすいため、ＮＴＴドコモから講師を招いて「ＳＮＳによる人権侵害」、「情報発信の仕方」の学習を実施することを通して、他者の気持ちを「慮る」ことや社会における協働について理解を深めた。行事前に理論的な学習を行い、文化祭での指導の中でも取り上げることで、態度の育成がより一層深まった。

⇒　体育祭では、集団への帰属意識や充実感・成就感を体感することにより、集団へ貢献する態度を高めることを目的にしている。事前学習としてスポーツ講演会を開始し、講師から、「する」・「見る」・「支える」・「知る」というスポーツ文化への多様な関わり方を学ぶことで、他者の気持ちを「慮る」態度の育成につなげた。また、体育祭の練習の中で、先輩が後輩を指導する体制を仕組み、協働性、合意形成力を培った。

⇒　留学生との交流会である「吉舎おもてなしプラン」に向けて、ＪＩＣＡによる

「出前講座」を行い、言語・文化・歴史・価値観などの複数の視点から多様性の在り方を理解させた。実際に留学生との交流の中で文化の違い等を感じることにより、他者の気持ちを「慮る」ことに対する理解が深まった。

○　他者の感性や価値観に触れる機会と自分の感性や価値観を表現する機会を、教育活動全体で多く設定した。

⇒　各教科等において、表現力の育成につながる授業づくりを進めた。「表現力の向上」を学校全体の目標とし、全ての教育活動において表現力の育成を意識した取組を進めた。

⇒　「心理的安全な環境をつくり自分らしさと可能性を引き出す」ことをテーマとした人権教育教職員研修を行い、教職員が傾聴やコーチングのスキルについて学ぶとともに、学んだ内容を生徒とのコミュニケーションにおいて活用した。

⇒　第３学年において行われる総合的な探究の時間の最終発表会では、第３学年の発表を第１・２学年が聴くという場の設定を行った。第３学年は、学習の成果を第１・２学年に伝えることを通して、自己の学びを振り返り、今後の自分の生き方や学びの方向性を考えた。第１・２学年は、第３学年の発表を聴き、自らを関わらせることを通して、今後の自分の生き方や学びの方向性を考えた。

○検証・評価・改善・普及

１（２）調査研究のテーマを設定した目的で示した目指す生徒の姿「多様な他者を知り交流する中で、自他の価値観を尊重し、協働して物事を進めていく生徒」を、次の表で示した指標（例）によって評価した。

三側面		指標	関連する主な取組
知識的側面	▸人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識	高齢者や障害者との共生について理解している。	・文化祭
		インターネットによる人権侵害について理解している。	・ＳＮＳによる人権侵害に関する講演会
		世界には多様な文化や価値観があることを理解している。	・おもてなしプラン
	▸自由・平等・正義・尊厳・権利・義務・連帯性等の概念の理解	人権を大切にしなければならないと思う。	・ＳＮＳによる人権侵害に関する講演会
		協働することの重要性を理解している。	・文化祭　・体育祭 ・おもてなしプラン
価値的・態度的側面	▸人間の尊厳、自己価値及び他者の価値を感知する感覚 ▸自己についての肯定的態度	他の人の喜びや悲しみに共感しようとしている。	・文化祭　・体育祭 ・おもてなしプラン
		友達や周囲の人から認められていると思う。	
	▸自他の価値を尊重しようとする意欲や態度	自分の気持ちを大切にしようとしている。	
		他人の考えや立場を尊重しようとしている。	
	▸多様性に対する開かれた心と肯定的評価	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている。	
技能的側面	▸互いの相違を認め、受容するための諸技能 ▸他者の痛みや感情を共感的に受容するための創造力や感受性	自分と異なる考え方を肯定的に受け止めることができる。	・文化祭　・体育祭 ・おもてなしプラン
		自分と異なる価値観を持つ人に対しても関わることができる。	
	▸能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能にするコミュニケ	自分の考えを積極的に伝えることができる。	

	ーション技能 ▸他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能	友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている。	
		どんな人に対しても、相手の立場に立ってものごとを考え、行動している。	

「日彰館高校の目指す生徒像への到達度調査」として、上記の指標 15 項目について、「とても・まあまあ・ふつう・すこし・ない」の５段階で回答するアンケートを、昨年度の事後アンケート【令和６年 12 月 19 日】と今年度の事後アンケート【令和７年 12 月 23 日】を実施し、結果を比較・分析した。

・失敗を恐れず挑戦する力について

アンケート項目の「⑬自分の考えを積極的に伝えることが出来る。」が 18.69 ポイント、「⑭友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている。」が 22.10 ポイント増加した。また、日高祭において高まった項目として、「⑬自分の考えを積極的に伝えることが出来る。」を 54.79%の生徒が、「⑭友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている。」を 67.12%の生徒が回答していることから、「失敗を恐れず挑戦する力」が高まったといえる。ＰＤＣＡサイクルを利用したことで、生徒が計画的に取り組んだことや自分の役割が明確になったことが、多くの生徒が自分の考えを積極的に相手に伝え、自分の役割を全うしようとしたことにつながったと考える。

・地域社会と共存する力（貢献）について

アンケート項目の「⑩地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。」が 20.27 ポイント増加した。また、体育祭において高まった項目として、「⑩地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。」を 58.90%の生徒が回答していることから、学校やクラスを一つの社会と考える生徒が増えたのではないかと考える。昨年度のアンケート結果で「⑩地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。」に対して「すこし」または「ない」の否定的な回答をした 11 名の生徒のうち８名が肯定的な回答に移ったことからも、学校行事を通して、帰属意識が高まったのではないかと考える。

<u>今後の取組について</u>

・失敗を恐れないで挑戦する力について

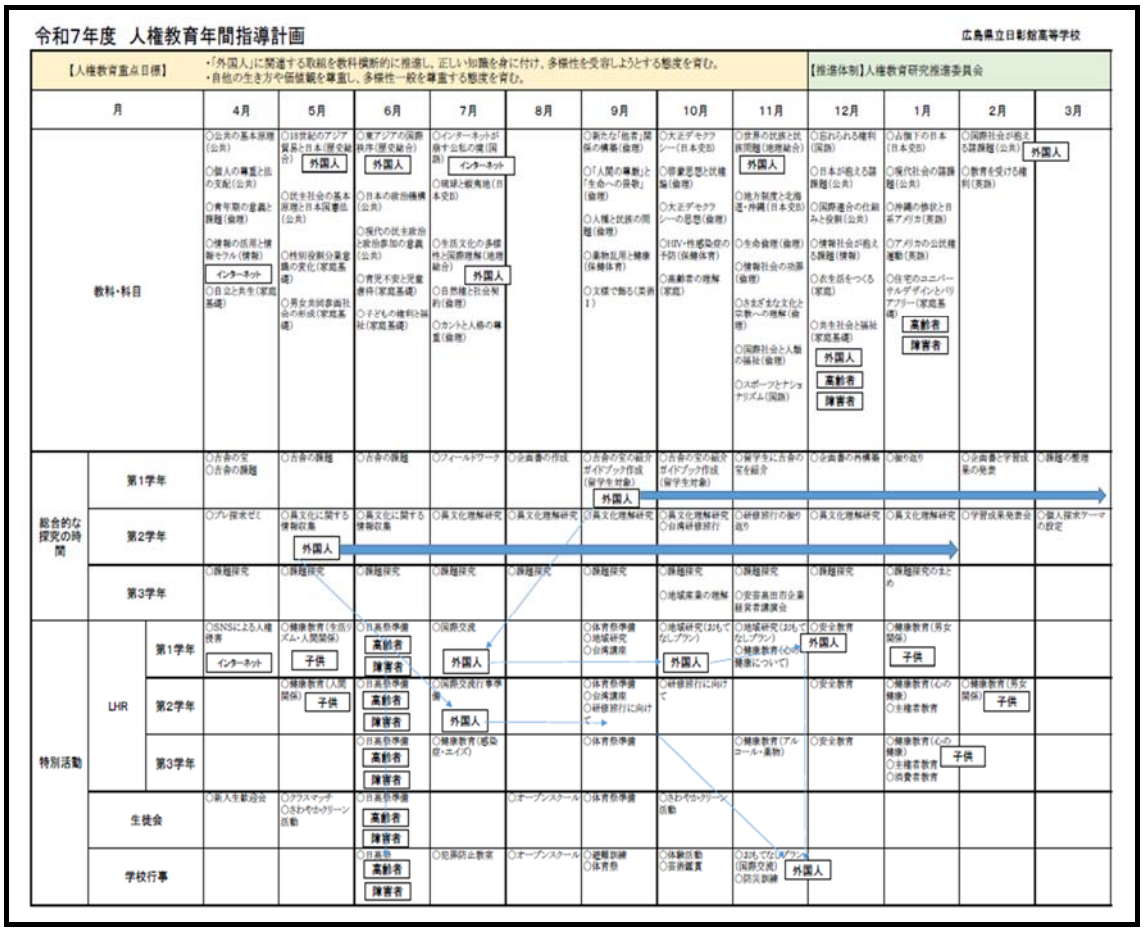
事後アンケート結果から、「⑬自分の考えを積極的に伝えることが出来る。」の肯定的回答が昨年度の 47.06%から、今年度は 65.75%と高まっているが、ほかのアンケート項目に比べると 10%以上低い。また「⑦友達や周囲の人から認められていると思う。」の回答が 58.90%と低い。このことから、生徒が周囲の人から認められていると実感できるようにするために、言動を一致させたり、責任をもって自分の言ったことをやりきったりすることができるよう、教職員全体で支援していくことが必要であると考える。

・地域社会と共存する力（貢献）について

事後アンケート結果から、「⑩地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている。」が昨年度からは上昇したが、64.38%と依然として他のアンケート項目と比べて低い。学校行事や総合的な探究の時間を通して地域と関われたという実感を持てた一方で、自分も地域の一員であるという意識が高まっていないのではないかと考える。そのため、先に述べたように学校生活を一つの地域社会ととらえ、クラスや学校に貢献することで帰属意識、規範意識を高めていくことが出来るのではな

いかと考えた。
今年度の研究結果を活用し、引き続き３大行事への実践を利用して、「自他の価値観を尊重し、協働する力、失敗を恐れず挑戦する力、地域や社会に貢献する力」の育成に取り組みたい。

５．人権教育にかかる年間指導計画



令和7年度　人権教育年間指導計画　　広島県立日彰館高等学校

【人権教育重点目標】
・「外国人」に関連する取組を教科横断的に推進し、正しい知識を身に付け、多様性を受容しようとする態度を育む。
・自他の生き方や価値観を尊重し、多様性一般を尊重する態度を育む。

【推進体制】人権教育研究推進委員会

月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教科・科目			○公共の基本原理（公共） ○個人の尊重と法の支配（公共） ○青年期の意義と課題（倫理） ○情報の活用と情報モラル（情報） インターネット ○自立と共生（家庭基礎）	○18世紀のアジア貿易と日本（歴史総合） 外国人 ○民主社会の基本原理と日本国憲法（公共） ○性別役割分業意識の変化（家庭基礎） ○男女共同参画社会の形成（家庭基礎）	○東アジアの国際秩序（歴史総合） 外国人 ○日本の政治機構（公共） ○現代の民主政治と政治参加の意義（公共） ○青児不安と児童虐待（家庭基礎） ○子どもの権利と福祉（家庭基礎）	○インターネットが奈す公私の境（国語） インターネット ○琉球と蝦夷地（日本史B） ○生活文化の多様性と国際理解（地理総合） 外国人 ○自然権と社会契約（倫理） ○カントと人格の尊重（倫理）		○新たな「他者」関係の構築（倫理） ○「人間の尊厳」と「生命への畏敬」（倫理） ○人種と民族の問題（倫理） ○薬物乱用と健康（保健体育） ○文様で飾る（美術Ⅰ）	○大正デモクラシー（日本史B） ○帝蒙思想と民権論（倫理） ○大正デモクラシーの思想（倫理） ○HIV・性感染症の予防（保健体育） ○高齢者の理解（家庭）	○世界の民族と民族問題（地理総合） 外国人 ○地方制度と北海道・沖縄（日本史B） ○生命倫理（倫理） ○情報社会の功罪（倫理） ○さまざまな文化と宗教への理解（倫理） ○国際社会と人類の福祉（倫理） ○スポーツとナショナリズム（国語）	○忘れられる権利（国語） ○日本が抱える諸課題（公共） ○国際連合の仕組みと役割（公共） ○情報社会が抱える課題（情報） ○衣生活をつくる（家庭） ○共生社会と福祉（家庭基礎） 外国人 高齢者 障害者	○占領下の日本（日本史B） ○現代社会の諸課題（公共） ○沖縄の惨状と日系アメリカ（英語） ○アメリカの公民権運動（英語） ○住宅のユニバーサルデザインとバリアフリー（家庭基礎） 高齢者 障害者	○国際社会が抱える諸課題（公共） 外国人 ○教育を受ける権利（英語）	
総合的な探究の時間	第1学年		○古舎の宝 ○古舎の課題	○古舎の課題	○古舎の課題	○フィールドワーク	○企画書の作成	○古舎の宝の紹介ガイドブック作成（留学生対象） 外国人	○古舎の宝の紹介ガイドブック作成（留学生対象）	○留学生に古舎の宝を紹介	○企画書の再構築	○振り返り	○企画書と学習成果の発表	○課題の整理
	第2学年		○プレ探求ゼミ	○異文化に関する情報収集 外国人	○異文化に関する情報収集	○異文化理解研究	○異文化理解研究	○異文化理解研究	○異文化理解研究 ○台湾研修旅行	○研修旅行の振り返り	○異文化理解研究	○異文化理解研究	○学習成果発表会	○個人探求テーマの設定
	第3学年		○課題探究	○課題探究	○課題探究	○課題探究	○課題探究	○課題探究	○課題探究 ○地域産業の理解	○課題探究 ○安芸高田市企業経営者講演会	○課題探究	○課題探究のまとめ		
特別活動	LHR	第1学年	○SNSによる人権侵害 インターネット	○健康教育（生活リズム・人間関係） 子供	○日高祭準備 高齢者 障害者	○国際交流 外国人		○体育祭準備 ○地域研究 ○台湾講座	○地域研究（おもてなしプラン） 外国人	○地域研究（おもてなしプラン） ○健康教育（心の健康について）	○安全教育 外国人	○健康教育（男女関係） 子供		
		第2学年		○健康教育（人間関係） 子供	○日高祭準備 高齢者 障害者	○国際交流行事準備 外国人		○体育祭準備 ○台湾講座 ○研修旅行に向けて	○研修旅行に向けて		○安全教育	○健康教育（心の健康） ○主権者教育	○健康教育（男女関係） 子供	
		第3学年			○日高祭準備 高齢者 障害者	○健康教育（感染症・エイズ）		○体育祭準備		○健康教育（アルコール・薬物）	○安全教育	○健康教育（心の健康） ○主権者教育 ○消費者教育 子供		
	生徒会		○新入生歓迎会	○クラスマッチ ○さわやかクリーン活動	○日高祭準備 高齢者 障害者		○オープンスクール	○体育祭準備	○さわやかクリーン活動					
	学校行事				○日高祭 高齢者 障害者	○犯罪防止教室	○オープンスクール	○避難訓練 ○体育祭	○体験活動 ○芸術鑑賞	○おもてなしプラン（国際交流） ○防災訓練 外国人				

６．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会等を含む）

